日刊工業新聞
年月日 21 04 06
ページ 25
NO.

激動の経営

仲代金属 ①

スリット加工に没頭

技術・誠実さで顧客つかむ

偶然の出会い

高い精密スリット加工技術で知られる仲代金属。その創業者で社長の安中茂が金属加工の世界に入ったのは偶然だった。15歳で故郷の新潟県を離れ東京に集団就職した安中はケーキ屋に就職するはずが、案内された先は金属加工会社。「バウムクーヘンを切るはずが金属を切っていた」と、集団就職のどさくさで予定外の会社に連れて行かれた。金属の精密スリット加工の第一人者となった安中と金属加工の出会いは意図しない合縁奇縁で生まれた。

思いがけない就職だったが初めての職場で帯状の金属を細く切断するスリット加工に携わった。その後、30歳まで土地や職を転々としたが常に金属の切断に携わった。もとより細かいことを根気よく続けて困難を克服するのが好きだった安中はスリット加工の腕を上げ、職人として知名度を高めていく。

仲代金属の本社・加平工場外観

独立・創業

金属商社に勤務していた時も商材として条材を取り扱うためスリット加工を担った。商社内に専用スペースを設け、安中が設計したスリット機械を2台導入。安中が工場長を務めた。しかし「商社では営業が花形、技術屋はないがしろだった。何より人情がなく冷たい環境だった」と1974年に独立、創業した。

昔から曲がったことやうそが嫌いだった。過去には経営者の不誠実を非難して対立、その会社を離れたことがあった。そんな安中らしく、創業した会社は「みんな仲良く、孫・子の代まで」との願いを込めて「仲代金属」と名付けた。故郷の兄から創業の支援を受け、前職で真面目に仕事を続け技術を磨いたことで顧客も新設の会社についてきてくれた。

多くの支援

会社を興してからは妻と2人で働き通しの日々を送る。夕方まで現場仕事、それから伝票を書いて朝にはトラックに詰め込み配達へ、戻ればまた加工する。5年ほど働き通したところで安中は過労で倒れた。配達ができなくなったため製品を受け取りに来てくれる顧客の仕事のみを受けることにした。「対応してくれるお客さまを大切にしようと考えた。今でもこの姿勢は続けている」と振り返る。

手狭な仕事場を見かねて地域の名士から土地の貸し出しの申し出があった。これが今の主力拠点である加平工場。技術と誠実さで多くの人から支援を受けた安中はさらに技術に没頭しひとかどの技術者になる。しかし大嫌いな〝うそ〟と〝不誠実〟が経営者としての安中を襲うことになった。（敬称略）

▽所在地＝東京都足立区加平3の14の11▽社長＝安中茂氏▽設立＝76年（昭51）8月▽資本金＝2500万円▽従業員数＝50人▽売上高＝7億円（20年7月期）

◇ ◇ ◇

「激動の経営」は危機を乗り越え、飛躍し、新たな成長軌道を描く企業のサクセスストーリーです。

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社